

連載

11

# 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (62歳・内科)

人間の生命力におどろき!!  
在宅医療の“しんずい”をみた。



平成元年ころ、元日本医師会長 武見太郎先生により発足した医療環境研究会にて朝日新聞論説委員 大熊由紀子女史による講演がありました。

その時、いろいろな合併症により入院中の女性(84歳)の様子がスライド上映されました。病室のベッドに横たわりコミュニケーションがあまりとれず、食事も取れず、点滴静注補液・尿バルーンが留置されていました。ある日、見舞に来たアメリカ在住の孫がそれに驚いて連れて帰ったそうです。それから2年後、アメリカ ロサンゼルス

の自宅プールサイドで、お化粧したご本人が楽しそうに過ごす様子が映し出されました。まるで20歳は若返ったかのようなその“ほほえみ”は今も私の脳裏に焼き付いています。

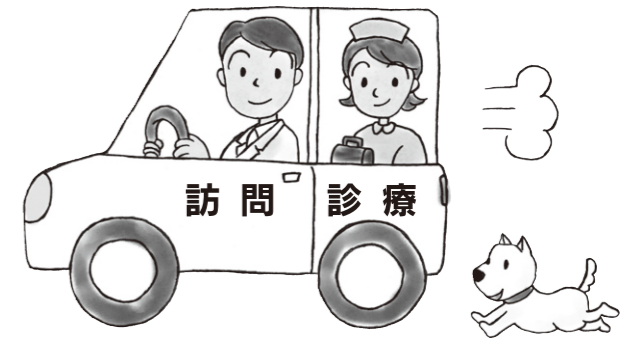
大熊女史は「専門職は、その社会保障資源を食い物にしてはいけない」と、きびしく締めくくりました。さらに「患者さんを大切に、本当に仕事をしてくださる人に業務をお願いします」と話されました。

そして平成12年、介護保障制度が施行されました。

私は医療に関わって45年になります。看取りの患者さんであっても、その方の人生の最期が24時間後なのか、1カ月後なのか予想がつかず、良い意味でうらぎられてきました。それだけ人間の生命力は奥深く、また再生力・若返る能力は常に持っている尊いものなのです。

在宅医療は国策であり、医療福祉関係者は患者の自立支援に向け研鑽を積み、お互い協力していかなければならないと再確認しました。

「お医者さんが来てくれる」  
質の高い在宅医療・看護・介護  
を『千舟町クリニック』は目指しています。



機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

**(医)東西会 千舟町クリニック**

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>